



卓 話



「人間、生きるって何だろう」

(株)染道楽にしきや

代表取締役 小林 次郎氏

21世紀を向かえ、早10年が経ちました。今私達は革命の中に居るのではないか。まわりでもすごい変化が起こっているぞという話を良く耳にします。歩かなくて良いよ、自動車に乗って行きな。掃除と洗濯も機械でやりなと、便利なものを沢山作ってくれました。20世紀はそれらを作る企業が優良企業でした。それが21世紀になって、大変になってきています。



人が動く（働く）と書いて「ハタラク」と読んで20世紀、私のまわりではそれを今「ナマケル」と読んでいます。動く事を仕事にしていた派遣の人間が切られました。一流大学を卒業して一流会社に就職する。それを優等生としていた20世紀は終わったのです。国も企業も力がなくなり、国民や社員を支える事が難しくなりました。“国民、社員は国や会社を頼るのではなく、支えていって初めて成り立つのだ”それが21世紀です。21世紀の学問のすすめ“活用なき学問は無学に等しい”の中で、教育とは頭に知識を置く事ではない。いかに経験を積んで知恵を出し、工夫の出来る子供を育てる。それを以って教育となすと言っています。

コンピューターとロボットがどんどん進化して、人の仕事をどんどん奪って行って超就職氷河期を迎えようとしています。さらにAU（アジア共同体）が出来ると、アジアの若者達が日本で働きます。貴方達は、その頃社会人になるのです。ではその時代に

“望まれる日本の若者像”とは何でしょう。しかし少しも心配する事はありません。コンピューターにもロボットにも出来ない、君達にしか出来ない事があります。それが“気配り、目配り、思い遣り”です。君達の頭の上には、お父さん、お母さん、右には先生、左には友達、そして足元には地球がいます。そこには“気配り、目配り、思い遣り”があります。20才の誕生日をどう迎えたいか考え、それを実現させる為の計画をたて、その練習を成し終えて、今日一日の終わりと成す。それが人生だと。“一芸に秀でろ” “人間 生きるってなんだろう” 一度立ち止まって考えてみて下さい。

地球環境についてお話します。今迄私達は地球への感謝の気持ちが少なかった様です。今地球が、人がこれ以上勝手な生き方をしたら、人を住まわせる事が出来ないと言ってきています。地球は死ぬと土にかえっていく生物と一緒にだったから、何億年も続けてこられました。循環型社会でした。それが130年前から化学の力を借りて、土にかえらない物を沢山作ってしまい、地球がそれを飲み込めずに困っています。

今日君達が染める藍染めの布は、不要になって土に捨てると地球がご馳走様と言って飲み込んでくれ、今度はそれを肥やしにしてまた綿と藍の草が生えてきます。化学繊維、化学染料はゴミと言って、飲み込む事が出来ません。自然素材の繊維に自然の色がのった布を大事にし、今日の藍染めをスタートとして、色の美しさ、物造りの楽しさを見出して、地球と仲良く生きて行く事に目覚めて下さい。

そうすれば、21世紀君達が心配する事はありません。しっかりと目標を定め、計画をたて、実行していけば君にしか見えない物が見え、それを表現出来る人になれます。それを世界が待っています。

以上私が44年間草木染と手織りの人生の中で感じた事です。